

## 令和元（2019）年度 栃木県浙江省友好交流員レポート（9月）

### ●友好交流員として

栃木県と浙江省の友好交流員として杭州市で半年間を過ごします橋本です。中国語の上達と交流員としての活動を目的に有意義な半年間にしたいと思います。

### ●杭州市の現状

20年ほど前、上海に留学していましたが、その頃とは違うことが多々あり、新鮮な気持ちで生活が始まりました。

大きく違っていたのはスマートフォン（以下、スマホ）の存在です。日本でもこの20年ほどの間にポケットベル、PHS、フューチャーフォンからスマホへと発展してきました。杭州でも現在はスマホが主流となっています。みんなスマホを離さない……。歩いていても食事をしていても多くの人がスマホとにらめっこ状態で、日本と同じだなと感じました。

さらに日本以上に使い方が日常生活の上で、多岐に渡って浸透していることに驚きました。

個人的に日本ではお財布携帯や〇〇ペイを使用したことがなく、それでも生活の上で問題はありませんでした。こちらではスマホ払いをしないと生活に支障が出ると感じ、必死の思いで使い始めました。実際に銀行口座を作ってスマホと連動させるまでは洗濯ができない状態で、洗面所で手洗いしていました。



「洗濯機の使い方（支払いはアリペイ等）」

また、銀行で、以前は問題なく作れた口座が作れない！（これは留学期間が半年であることも原因の一つでした。）

それから、両替の手続きが厳しい！以前は窓口へ行き、パスポートと日本円を出せばすぐに両替できたのに、今は窓口で座ってパスポートを渡した後、向こう側で何やらいろいろと作業をして、3回ほど書類にサインを求められ、30分ほどでようやく両替された人民元を手にすることができました。外国人に対する諸手続きが厳しくなったと聞いていましたが、ひしとそれを感じた出来事でした。到着後1週間は、様々な手続き、生活や学校の準備でばたばたしましたが、授業が始まると少し落ち着きました。



「浙江大学国際教育学院ビル（宿舎）」



「宿舎の部屋の様子」

## ●授業について

入校手続きの際に簡単な中国語のテストがあり、日を改めての口試（会話試験）と筆記（筆記試験）によってクラス分けが行われました。

2019年秋学期のクラスは初級・中級・高級を合わせて31クラスとなりました。クラスには半年前から来ている留学生も多くいて、ひとクラス20名から25名前後の学生がいます。日本人はひとクラスに1人～3人程度です。

授業は月曜日から金曜日までであり、時間割はクラスによって異なります。それぞれの授業で予習・復習・宿題があるため、平日は授業が終わると専らそれらに追われていますが、先生方の教え方はとても解りやすく、楽しく学んでいます。



「入学式会場（紫金校区）」



「式典での太鼓の演技」

## ●余暇について

授業以外の時間はもちろん自由に使えますが、平日は机に向かうことが多いです。一方で、休日や勉強に余裕がある時は、大学周辺を散策したり観光名所を訪れたり街へ買い物に出るようにしています。

やはり地元の方たちとの会話はとても勉強になります。とある日、大学の裏山に登った際、地元のご高齢の男性とお話ししました。留学生には慣れてるらしく、聞き取りやすい話し方をして下さり、その心遣いが嬉しかったです。また、栃木県から来たと伝えた際には「浙江省と友好都市だね。知ってるよ！」と話が弾みました。

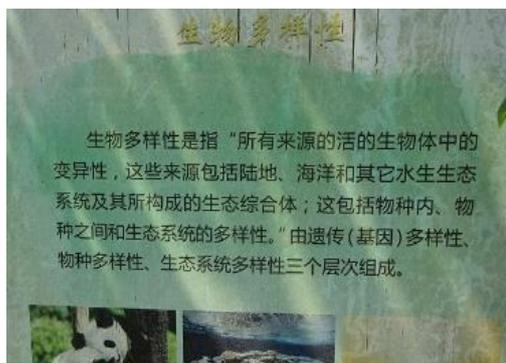


「西湖」

その他、個人的には地元の自然を知りたいため、植物園や街中の自然があるところを訪れて話を聞きたいと考えていますが、実際に行くと自然に関するガイドをしている方が見受けられないため、引き続き情報収集していこうと思っています。



「杭州にもいます。野鳥愛好家。」



「生物多様性について記載された看板（杭州植物園内にて）」

## ● 钱塘江の海嘯（逆流）

毎年中秋節の頃、杭州市を流れる钱塘江では、波が海から川の上流へ遡る【逆流（海嘯）】が見られます。2019年は9月15日前後の期間に見られ、川沿いにはたくさん見物人が訪れていました。もちろん私も見に行きました。



「なかなかの人出でした」

私が見に行ったのは、まさに9月15日でしたが、数日前が1番大きな波だったようで、小さめの逆流を見ることになりました。海へ向かって流れるはずの水が、上流へ遡っていく様子は、滅多に見られない自然現象でもあり、感動するとともに若干の脅威を感じました。

この逆流を見る人は主に川沿いに集まりますが、中には下の写真のような人達もいました。彼らはどこまで波と一緒に遡っていったのか気になるところです。



「モーターボートやサーフィンで波の先を行く人達」

钱塘江は、中国の内部にある仙霞嶺山脈から杭州湾まで流れる、全長494kmの川です。河口が広く、上流へ行くに従って狭くなる地形・潮の満ち引き・月の引力などの条件が揃った時に、逆流が見られるということです。逆流自体は、毎月1日から5日頃と15日前後に見られるようですが、中でも中秋節の前後に大逆流となるため、この時は多くの人々が川沿いに集まります。また、夜中にも見られるのですが、さすがに見に行くのは憚られ、ニュースで様子を見るにとどまりました。



「小さめですが見応えはありました」

左の写真の川向こうの建物は、2022年にアジア競技大会（アジアオリンピック評議会が主催する総合競技大会で、アジア版オリンピックとも言われています。）が開催される会場とのことです。

街中では、地下鉄敷設と駅の工事が行われていたり、あちらこちらで建物が建設中で、新しいものがどんどん出来上がろうとしています。中国に滞在するのが半年間という短い期間なので、その出来上がりを見ることはできませんが、できるだけ多くのことを見て吸収していきたいと思います。

栃木県浙江省友好交流員  
橋本 和加子